



国際交流委員長補佐 松井 良明

奈良工業高等専門学校における国際交流活動は、グローバル化を目的として平成18年度に制定された国際交流促進計画から開始されました。平成24年度には海外校からの留学生受入れ、また平成25年度からは海外大学との交流協定締結など、奈良高専国際交流はここ数年、活動実績とともにその成果も徐々に蓄積、顕在化されはじめています。さらに国際事業に参加した学生たちの海外経験の報告内容やTOEICスコアの向上から教育効果も認められます。平成27年度も継続して以下の国際交流事業への取り組みを計画しています。

1. 本校学生の海外派遣事業

- 1-1. シンガポールNanyang Polytechnic校へ本校学生4名を派遣（専攻科生4週間）
- 1-2. 台湾国立勤益科技大学へ本校学生2名を派遣（専攻科生4週間）
- 1-3. シンガポールへ、本校学生約20名を派遣（本科生3, 4年、約2週間）

2. 海外からの学生訪問受入れ事業

- 2-1. 5月－7月の留学生受入れ（シンガポールNYPより2名の留学生）

- 2-2. 10月－12月の留学生受入れ（シンガポールNYPより2名の留学生）

- 2-3. 3月シンガポールNYPより約30名の短期訪問受入れ

3. 学術交流

ISATE2015への参加（長岡高専）

平成27年7月には、前年度の海外派遣事業参加学生による成果報告会、及び本年度参加を希望する学生に対する説明会の同時開催を計画しています。成果報告と本年度の説明の一本化については、昨年度の参加学生による自らの成果のアピールによって、次年度参加を検討する学生への高い動機付けをねらいとしています。

2-1でも記しましたシンガポールNanyang Polytechnic校からの留学生2名は、5月に来校され、現在物質化学工学科で研究活動等に参加されています。開始前には学生間のコミュニケーションなど不安を感じておりましたが、現在は学生同志で楽しく過ごしている様子を見るに至り、国際交流委員にとりましてたいへん嬉しく思う次第です。

シンガポール国際交流派遣レポート

情報工学科4年 真弓 凌輔

私はシンガポール国際交流派遣プログラムに参加し、3月10日から20日にかけてシンガポールへ渡航しました。

今回のナンヤンポリテクニクで実施されたプロジェクトでは、渡航前からグループ別に現地の学生と連絡をとりながら共通のテーマに取り組み、現地で共同発表を行いました。事前に情報を集めて発表資料を準備したのですが、国民性の違いでしょうか相手校の学生はのんびりしていて、私たちの班は事前に準備を終えることができずでした。このようなことは個人旅行などでは体験できない、私にとって貴重な経験になりました。

さて、プログラム全体を通して私が感じたことは、英語はただのツールに過ぎないということです。普段、私たちは英語を使う際に、よく文法や発音を気にします。しかし、英語を何のために使うのかと考えたとき、本当に必要なのは伝えようとする気持ちや自分自身を表現する力なのではないかと思いました。逆にいうと、いくら文法や発音が正しくても、伝えようと努力しなければ、本当に伝えたいことが相手に正しく理解してもらえないのではないかと思いました。

今後さらに海外の方と交流する機会が増えていくと思いますが、その際に今回のプロジェクトで学んだことを思い返し、よりよいコミュニケーションをとることができるようにしていきたいと思っています。

